

急性期病院における医療連携の取組（B病院の場合）

病院概要（H22年12月1日現在、患者数はH22年実績）

- ・施設認定：地域医療支援病院、臨床研修指定病院、総合周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院、DPC対象病院など
- ・病床数：一般病床1141床、感染症病床10床 診療科：内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科など
- ・職員：医師414人、歯科医師5人、薬剤師78人、看護職員1222人、MSW8人、理学療法士33人、作業療法士21人、言語聴覚士8人、管理栄養士18.8人、歯科衛生士13人、臨床検査技師115人、臨床工学技士45人、診療放射線技師73.6人、総職員2879人
- ・患者数：入院患者数（1日平均）1050名、外来患者数（1日平均）2835名、平均在院日数（一般病床）12.2日

前方連携

○主な取組

- ・CT、MRI、PET/CTなどの共同利用を推進するために、他院からアクセス可能な放射線科のWeb予約制度を構築
- ・画像診断医が不在の地域の医療機関を支援するために、医療画像伝送ネットワークを構築
- ・連携医療機関のリストおよび医師会との共作の顔写真つき担当医表を作成し、同病院HP、医師会イントラネットに掲載
- ・地域連携を目的とした勉強会を実施（地域医療連携室関与 45回/年）
- ・転院先との相互理解を深めるための多職種による病院訪問活動（病院訪問4-5件/年、診療所訪問（連携室単独）100-150件/年）

後方連携

○主な取組

- ・後方連携病院の多職種（看護師、リハビリ、MSW）が来院し、転院予定の患者・家族と面会（診療情報提供書では見えない部分の情報共有）
- ・退院待機時間を短縮するために、後方連携病院の空床情報を登録してもらう（11病院）
- ・かかりつけ医への紹介の促進のために、診察室で右の用紙（かかりつけ医のご紹介）を配布し地域医療連携室で医療機関を紹介

地域医療支援

○主な取組

- ・病院情報システム研究会（2001年～事務局として活動）
県西部18病院：地域連携・経営・医事・物流・情報のWG
- ・連携実務者の会 5医療圏の代表者会（2009年～事務局として活動）
県内20病院：各病院の連携実務者が集い、情報交換等を実施
- ・看護連携を奨める会（2002年～事務局として活動）
県西部28病院：後方連携病院の看護師が集い、情報交換等を実施
- ・地域連携に関わる報告体制の構築
連携上のトラブルと再発防止策を収集し、評価分析することで連携の質向上につなげる
- ・地域連携小児夜間・休日診療運営
場所を提供し医師会と協働しながら夜間・休日の小児医療を提供
- ・開放病床利用：現在153名の診療所医師が登録（2010年運用実績）
利用者数：のべ80名 利用医療機関：17医療機関
共同指導実施回数：78回 共同指導実施患者数：47回

かかりつけ医のご紹介

総合相談・地域医療センターへ（中央玄関横）ご持参ください

※当院は急性期病院です。病状が安定すると、他の病院・医院のご紹介をさせていただきます。できる限り患者さまのご希望にそった病院医院をご紹介させていただきます。かかりつけの先生よりご依頼があれば、いつでも診察させていただきます。

		実績（H22年）	
紹介率	68.1%	逆紹介率	84.7%
年間		平均在院日数	12.2日
初診患者の数	37054人	救急患者の数	1660人
紹介患者の数	23563人	逆紹介患者の数	31387人

出典：B病院よりいただいた資料を参考に作成